

平成 29 年度「障害者対策総合研究開発事業」事後評価について

1 事後評価の趣旨

事後評価は、研究開発課題等について、研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

2 事後評価委員会

開催日：平成 29 年 12 月 8 日、平成 30 年 2 月 1 日、8 日

3 評価委員一覧

(1) 精神障害分野

氏名	所属・職名
中村 耕三	東京大学 名誉教授
樋口 輝彦	日本うつ病センター
池淵 恵美	帝京大学医学部精神神経科学講座
大野 裕	認知行動療法研修開発センター
川上 憲人	東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野
小山 司	大谷地病院 臨床研究センター
武田 雅俊	藍野大学
中村 純	北九州古賀病院
長谷川 花	沼津中央病院
平安 良雄	横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門
和田 清	埼玉県立精神医療センター
渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科

(2) 神経・筋疾患分野

氏名	所属・職名
中村 耕三	東京大学 名誉教授
中島 八十一	長野保健医療大学 保健科学部 教授
勝野 雅央	名古屋大学大学院 医学系研究科神経内科
木村 円	国立精神・神経医療研究センター 病院 臨床研究支援部
西山 和利	北里大学医学部神経内科学
御子柴 克彦	理化学研究所 脳科学総合研究センター
水澤 英洋	国立精神・神経医療研究センター

(3)身体・知的等障害分野

氏名	所属・職名
中村 耕三	東京大学 名誉教授
中島 八十一	長野保健医療大学 保健科学部 教授
五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
今橋 久美子	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 研究員
大串 幹	兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリテーション科 部長
尾島 俊之	浜松医科大学 医学部健康社会医学講座 教授
小崎 慶介	心身障害児総合医療療育センター 整肢療護園長
神宮司 誠也	九州労災病院 副院長
田中 栄	東京大学 整形外科 教授
藤谷 順子	国立国際医療研究センター リハビリテーション科 医長
本橋 裕子	国立精神・神経医療研究センター病院 第一小児神経科医長
水間 正澄	医療法人社団輝生会 常務理事・教育研修局長
山内 繁	支援技術開発機構 理事長

4 事後評価対象課題

(1)精神障害分野

代表者	所属施設	研究開発課題
平林 直次	国立精神・神経医療研究センター	医療観察法における、新たな治療介入法や、行動制御に係る指標の開発等に関する研究
立森 久照	国立精神・神経医療研究センター	精神医療に関する空間疫学を用いた疾患発症等の将来予測システムの開発に関する研究
松本 俊彦	国立精神・神経医療研究センター	精神医学救急医学法医学が連携した危険ドラッグ使用の病態症状対応法の開発に関する研究
山之内芳雄	国立精神・神経医療研究センター	精神科病院の入院処遇における医療水準の向上システムの開発に関する研究
山田 光彦	国立精神・神経医療研究センター	精神疾患に起因した自殺の予防法に関する研究
緒方 徹	国立障害者リハビリテーションセンター	高次脳機能障害支援における血液バイオマーカーの活用に関する研究
神庭 重信	九州大学	精神疾患の病態を反映した鑑別診断、重症度予測が可能な血中バイオマーカーの実用化研究
神庭 重信	九州大学	ICD-11「精神と行動の障害」改訂案の信頼性有用性の研究
伊藤 弘人	国立精神・神経医療研究センター	合併症を伴う精神疾患の治療に関する研究
加藤 進昌	昭和大学	発達障害者の特性をふまえた精神科ショートケアプログラムの開発と臨床応用(修学就労支援)に関する研究
安達 潤	北海道大学	知的障害者、発達障害者の支援における多分野共通のアセスメントと情報共有手段の開発に関する研究

(2) 神経・筋疾患分野

倉恒 弘彦	関西福祉科学大学	慢性疲労症候群に対する治療法の開発と治療ガイドラインの作成
-------	----------	-------------------------------

(3) 身体・知的等障害分野

伊藤 和幸	国立障害者リハビリテーションセンター	脳性麻痺者・脳卒中者の意思伝達支援のための非接触ジェスチャ認識インタフェースの開発
-------	--------------------	---

5 評価項目

- ① 研究開発達成状況
- ② 研究開発成果
- ③ 実施体制
- ④ 今後の見通し
- ⑤ 事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥ 総合評価

6 総評

本研究事業では、4つの分野(身体・知的等障害、神経・筋疾患、感覚器障害、精神障害)において、①障害者の地域社会での共生の実現や社会的障壁の除去につながる技術開発等の研究、②障害を招く疾患等についての病因・病態の解明、予防、診断、治療法、リハビリテーション法等の先進的・実践的な研究、を推進します。

今回の事後評価対象となった3分野 13 課題の評価結果については、「計画を超えて大変進捗」と評価された課題は1課題、「計画を超えて進捗」は8課題、「計画どおりに進捗」は2課題、「計画どおりに進捗していない部分があるが、概ね計画通りに進捗」は2課題となりました。

(以上)